

建築主：社会福祉法人 福祉楽団  
 設計：アトリエ・ワン  
 施工：株式会社ハヤシ工務店  
 所在地：香取市沢2452 番1

～里の生態系を成す赤屋根たち～

## 栗源第一薪炭供給所(1K)



栗源第一薪炭供給所(1K)正面

(撮影/アトリエ・ワン)

赤い切妻屋根に覆われた開放的な作業場で、スプリッターマシンの助けを借りて、高齢者や障害者が薪割りに勤しんでいた。農福連携ですっかり有名になった福祉楽団が2018年に始めた就労継続支援B型の新しい試みだ。

これに先行する「恋する豚研究所」は、しゃぶしゃぶレストランが目玉の施設(就労継続支援A型を含む)で、2014年に同じく優秀賞を授賞している。赤い屋根が人目を引く建物だ。今回の薪炭供給所は、その隣地に建つ。

新事業のきっかけは、この事務所の薪ストーブ用に、裏の杉林の間伐材を薪に割っていたら、薪を譲ってもらえないかと言われたことだったという。薪炭供給所の中心の建物は、三段押し出しのかたちをした屋根に覆われている。材2丁抱き合わせて頬杖を挟み込みこむことで、地元の一般的な杉材を用いて、開放的な木造の7.2メートルスパンを実現させている。

屋根の小屋組を支える丸柱は、裏の杉林から伐り出したものだ。裏の林の樹木が柱

に見えたから、薪割り作業場の建物ができる。そして、もともと隣地は畑地だったから、そこで栗源特産のさつまいも紅小町を栽培した。収穫したさつまいもがお菓子に見えたから、スイートポテトができてスイートポテト屋さんのカフェ小屋が建った。アクターネットワーク流に言えば、こういう説明になろうか。もう一軒、ジャム工房の小屋が加わり、赤い小さな屋根が増えていった。

目標があらかじめあって、それを目指してつくった建物ではない、といわんばかりに力が抜けている。樹木やいものエージェンシーに突き動かされずしてできなかった建物群だ。そこが古くて新しい。

(岡部 明子)



敷地全景

(撮影/福祉楽団)



栗源第一薪炭供給所(1K)の作業場内観

(撮影/アトリエ・ワン)